

渡島管内農業の概要

令和5年(2023年)4月 渡島総合振興局産業振興部農務課

1 農業構造

(1) 気候

渡島管内は、平均気温が9.4℃(札幌9.2℃、旭川7.2℃)と道内の中ではやや高めで、日照時間も1,745h(札幌1,718h、旭川1,567h)と長く、降水量も1188mm(札幌1146mm、旭川1104mm)と多い。道内の中では春の雪解けが早く、土壌凍結深度も浅いことから、農耕に適した期間が長い地域である。

(2) 耕地面積

渡島管内の耕地面積は24,000haとなっており、全道の耕地面積の2%であり、平均経営耕地面積も14haと全道平均の半分以下で、振興局別では最も経営規模が小さい地域となっている。

(3) 農家戸数

農業経営体は、過去20年間で52%減少し、全道平均(45%)を上回って減少している。一方で、法人経営体は規模拡大に伴い倍増している。経営耕地規模別では5ha未満の農家割合が55.6%と過半を占めている。

(4) 農業就業人口

基幹的農業従事者は、過去20年間で48%減少しており、直近5年でも771人減少しているだけでなく、65歳以上の割合も46.9%と全道平均(40.5%)を上回っている。また、農業後継者がいる経営体の割合は25.5%と全道平均(31.0%)を下回っている。

2 農作物の概要

(1) 水稲

令和4年産の水稲面積は2,830ha、単収は520kg/10aで収穫量は14,700t。作況指数は103の「やや良」となった。品種は道南向けの晩生種である「ふっくりんこ」が67%を占めている。

また、春先の労力軽減を図るため、湛水・乾田直播栽培もゆっくりと拡大しており、道南の気候を生かした中生品種が栽培されている。さらに、既存機械を活用した新たな対策として高密度播種による苗箱を減らす取組なども始まっている。

(2) 畑作

馬鈴しょが基幹作物であり、令和3年産では畑作物全体の約4割を占める593haが作付けされているものの、年々減少している。平成16年以降は水田転作大豆の奨励に伴い大豆の作付けが拡大してきたが、近年は、小麦やてんさいもやや拡大傾向となっている。

(3) 野菜

温暖な気候を生かした野菜生産が盛んで、ビニールハウスやトンネル栽培による端境期出荷が可能な地域でもあり、檜山管内と一緒に「函館育ち」ブランドで広域出荷しており、道内の主要な産地となっている。

特に、にんじんやだいこん、トマト、きゅうりは促成栽培や抑制栽培が可能な産地であり、ねぎ、にら、ほうれんそう等は冬期間の出荷も行われている。

作付面積では、かぼちゃ、にんじん、ねぎ、だいこん、スイートコーンの順に作付面積が大きく、特にねぎは道内の53.6%を占める主要な産地となっている。他にも多くの施設野菜が栽培されており、特に知内町のにらは全道シェアの69.1%を占め、全国でも有数の産地となっている。

(4) 果樹

七飯町で主にりんごを中心に生産されているが、近年は減少傾向にある。また、平成23年から「ぐんま名月」の高規格品を「ななみつき」として商標登録するなどブランド化を図る取組も進められている。森町ではブルーベリー等の希少な作物も栽培されている。

さらに、近年はワイナリー数の増加に伴い醸造用ぶどうの作付が増加している。

(5) 花き

切花を中心に生産が行われており、特に七飯町は全道一のカーネーション産地となっている。

他にも宿根カスミソウやアルストロメリア、ソリダコなどは全道でも高いシェアを占めており、多様な種類の花きが栽培されている。

■ 渡島の農業構造

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次
耕地面積	田	ha 6,490	221,600	2.9%	R4
	畑	ha 17,500	919,900	1.9%	R4
	計	ha 24,000	1,141,000	2.1%	R4
経営耕地のある農業経営体数	経営体	1,472	34,042	4.3%	R2
経営耕地面積	ha	19,815	1,028,421	1.9%	R2
1経営体当たり経営耕地面積	ha	13.5	30.2	44.6%	R2
農業経営体数	戸	1,523	34,913	4.4%	R2
うち法人	戸	103	4,047	2.5%	R2
5ha未満の経営体数	戸	847	8,133	10.4%	R2
5ha未満の経営体数の割合	戸	55.6%	23.3%	238.7%	R2
基幹的農業従事者数	人	3,014	70,643	4.3%	R2
うち65歳以上	人	1,415	28,630	4.9%	R2
65歳以上の割合	%	46.9%	40.5%	+6.4 P	R2
平均年齢	歳	61.1	58.5	+2.6歳	R2
農業後継者がいる	戸	389	10,834	3.6%	R2
農業後継者がいる割合	%	25.5%	31.0%	—	—
農業産出額(試算値)	億円	429	12,667	3.4%	R2
耕種(試算値)	億円	176	5,329	3.3%	R2
畜産(試算値)	億円	253	7,337	3.4%	R2

(資料:農林水産統計、農林業センサス)

1経営体当たり経営耕地面積は経営耕地面積÷経営耕地のある農業経営体数で算出

■ 主要農作物の作付面積

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次	
水稲	ha	2,830	93,600	3.0%	R4	
小麦	ha	298	126,100	0.2%	R3	
大豆	ha	505	42,000	1.2%	R3	
そば	ha	112	24,300	0.5%	R3	
てんさい	ha	148	57,700	0.3%	R3	
馬鈴しょ	ha	593	47,100	1.3%	R3	
野菜	にんじん	ha	4,103	6.4%	R2	
	かぼちゃ	ha	5,751	5.0%	R2	
	ねぎ	ha	485	53.6%	R2	
	だいこん	ha	2,280	8.2%	R2	
	スイートコーン	ha	100	6,350	1.6%	R2
	ほうれんそう	ha	81	274	29.7%	R2
	トマト	ha	71	696	10.1%	R2
	キャベツ	ha	48	925	5.2%	R2
	えだまめ	ha	23	1,149	2.0%	R2
	にら	ha	30	44	69.1%	R2
	かぶ	ha	24	60	39.7%	R2
	きゅうり	ha	15	92	16.7%	R2
	はくさい	ha	15	353	4.2%	R2
	こまつな	ha	15	70	20.9%	R2
みつば	ha	1	3	23.5%	R2	
果樹	りんご	ha	447	9.0%	R2	
	ブルーベリー	ha	91	10.2%	R2	
	おうとう	ha	3	359	0.9%	R2
花き	カーネーション	a	3,045	54.8%	R3	
	宿根カスミソウ	a	1,549	9.0%	R3	
	アルストロメリア	a	636	25.5%	R3	
	スターチス	a	5,921	0.8%	R3	
	トルコギキョウ	a	87	1,804	4.8%	R3
	ソリダコ	a	55	253	21.7%	R3
キク	a	2	1,004	0.2%	R3	

(資料:農林水産統計、渡島総合振興局農務課調べ)

3 畜産の概要

(1) 酪農

酪農は、八雲町や長万部町など渡島北部が主要な地域で、生乳の販売額は農協販売額の約25%を占め、野菜に次ぐ基幹品目となっている。

経営規模が小さい農家が多いが、近年は法人化などによる大規模経営も増えてきている。

また、経産牛1頭あたりの平均乳量は9,640kgで、全道平均(10,025kg)に比べ少ない状況となっている。

(2) 肉用牛

肉用牛の飼養戸数は、高齢化・後継者問題を抱えた小規模農家の離農等により減少傾向にある。

肉用牛農家の多くは繁殖経営であり、肥育を行っている農家は少ないが、肥育を行っている場合でも飼養頭数の約99%は乳用種又は交雑種(F1)となっている。

専用種のうち褐毛和種は、地域の特産として「はこだて和牛」ブランドで販売されている。

(3) 養豚

養豚は主に森町・八雲町で営まれており、大規模な企業法人経営が主体となっている。

飼養頭数は、全道の約17%のシェアを占めている。

■ 家畜飼養農家数と頭羽数

区分		単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次
乳用牛	農家数	戸	171	5,671	3.0%	R3
	頭数	頭	15,709	846,791	1.9%	
	戸当たり頭数	頭	91.9	149.3	61.5%	
肉用牛 (肉専用種)	農家数	戸	110	2,112	5.2%	R3
	頭数	頭	4,428	189,649	2.3%	
	戸当たり頭数	頭	40.3	89.8	44.8%	
肉用牛 (乳用・交雑種)	農家数	戸	11	637	1.7%	R3
	頭数	頭	16,039	342,558	4.7%	
	戸当たり頭数	頭	1,458.1	537.8	271.1%	
豚	農家数	戸	22	203	10.8%	R3
	頭数	頭	74,657	450,878	16.6%	
	戸当たり頭数	頭	3,393.5	2,221.1	152.8%	

(資料：渡島総合振興局農務課調べ)

■ 生乳生産量

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次
生乳生産量	t	49,572	4,265,600	1.2%	R3
経産牛1頭当たり乳量	kg	9,640	10,025	96.2%	R3

(資料：渡島は渡島総合振興局農務課調べ、北海道は農林水産統計)

(資料：経産牛1頭当たり乳量は北海道酪農検定検査協会)

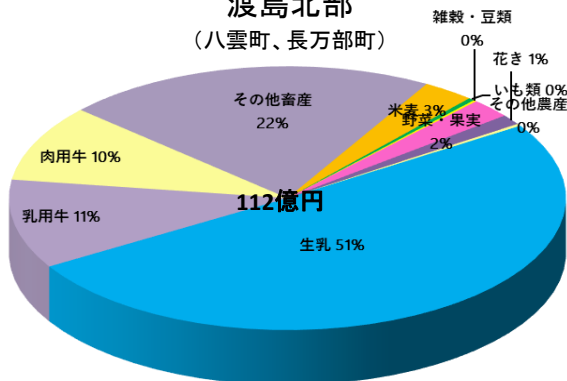
4 渡島地域の特徴

■ 農業算出額(試算)(令和3年)

渡島管内は、南北に長く、気象や立地条件が異なることから、地域によって特色ある農業が展開されている。

渡島北部

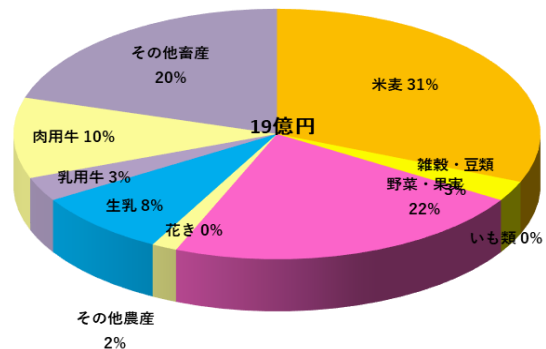
(八雲町、長万部町)



酪農の占める割合が高いほか、肉用牛の飼育など畜産が主体。八雲町南部は、水稲(もち米)や軟白長ねぎ、カスミソウなどを栽培。

渡島南西部

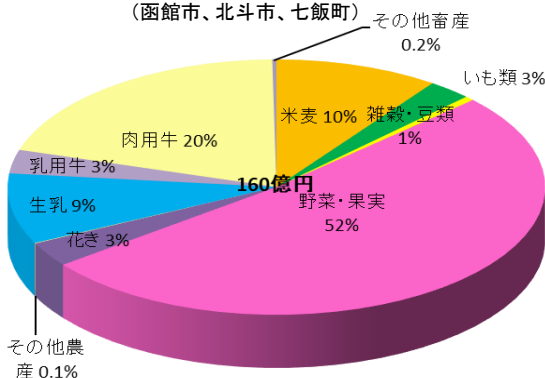
(松前町、福島町、知内町、木古内町)



知内産ニラはブランドが確立され、近隣の木古内町にも野菜生産が波及。福島町は、黒米やそばを栽培。松前町は、黒毛和牛を繁殖。木古内町は、褐毛和牛を繁殖・肥育。

渡島中央部

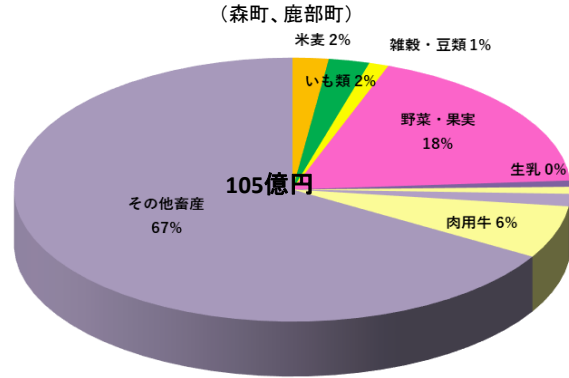
(函館市、北斗市、七飯町)



トマト、きゅうり、ねぎ、にんじんなどの野菜の生産が盛んなほか、カーネーションなどの花き、果樹、米など耕種部門を中心に多様な作物を生産。七飯町大沼地区は、酪農や肉用牛など畜産が盛ん。

渡島駒ヶ岳

(森町、鹿部町)



森町は、養豚が盛んで、野菜や畑作物を栽培。濁川地区では、地熱や温泉熱を利用したトマト、きゅうりなどを冬期間も栽培。駒ヶ岳地区は、かぼちゃなどを栽培。鹿部町は、肉用牛を肥育。

資料：農林水産省市町村別農業生産額(推計)

注：地域別の生産額は市町村別農業生産額(推計)により試算